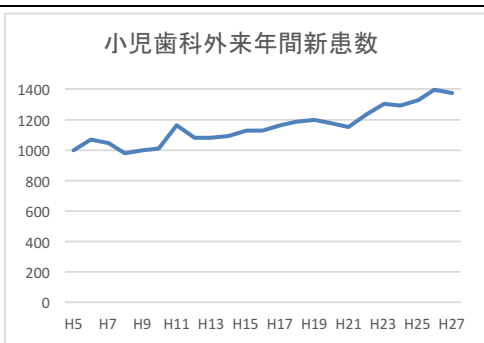


大学名	東京医科歯科大学
講座、分野（教室）名	大学院医歯学総合研究科 口腔機能再構築学講座 小児歯科学分野
主任教授	不在（分野長 は 准教授・宮新 美智世）
講座の特色	
<p>東京医科歯科大学に日本で初めての小児歯科学講座として開設された1956年から62年が経ちました。現在、スーパーグローバル大学として多くの留学生が共に学び、毎年多くの学生が海外で学んでいます。本学歯学部は世界大学評価機関Quacquarelli Symondsにより発表された2016年QS世界大学ランキングの歯学分野において日本で第1位、世界第3位にあります。とはいえ、このようなランキングに踊らされることなく、伝統を重んじつつ、進取の精神で常に時代を先取りして活動しています。子どもの健全なお口作りを通じて健康と幸福に貢献するために、分野員30名が日々切磋琢磨しております。研究においては、最先端口腔科学研究推進プロジェクトをはじめとする学内共同研究ならびに他大学との共同研究が増加しています。また、医学歯学の垣根をとりはらった教育と診療が行われています。研究発表会や症例カンファランスを毎週行い、抄読会や研究進捗報告会を定期的に開催しています。</p>	

小児歯科外来 診療室の状況

設備	チェア数： 10台 （内1台は小手術コーナーとしても使用）
スタッフ	歯科衛生士：ローテーションで 2～3名
	隣接して医学部附属病院がある



来院患者数に恵まれており、様々な症例を経験できる環境にある。年間1300人の新患が訪れ、内3/4を実際に小児歯科で担当している。医学部附属病院との連携も進められ、ハイリスク患者への対応、小児病棟への往診などの経験を積むことができる。

子どもの歯と口についての相談と治療全般: 幼少児の外来診療から、有病児の全身麻酔まで、各自に適した治療方策を提案できる。

歯の外傷専門外来: 歯根を含む複雑破折、歯根吸収等難症例の治療、**セカンドオピニオン**

歯の精密検査: TLP(透過型光電脈波法)、客観的動揺度診査

予防的歯内療法（インピーダンス測定によるGCRP、FS生活歯髄切断法、乳歯・根未完成歯の電氣的根管長測定、外科的歯内療法）

系統的口腔ケア: う蝕リスク検査からパウダーフローによるケアまで

審美的乳歯修復、歯の形成不全の治療、先天性欠如に対する咬合誘導

医学部附属病院への往診

外来小手術の種類と件数

	H22	H23	H24	H25	合計
埋伏過剰歯摘出術	52	53	55	59	219
埋伏永久歯摘出術	1	2	2	1	6
埋伏乳歯摘出術	0	1	3	4	8
開窓術	3	7	13	4	27
歯牙腫瘍摘出術	3	6	10	3	22
上唇小帯切除術	2	3	4	12	21
舌小帯切除術	4	8	2	8	22
粘液嚢腫摘出術	3	2	3	1	9
その他	2	1	0	1	4
合計	80	83	93	93	349

当教室では2年間の研修コースを設定している。
約2割の症例は研修過程中的院生等が担当している。



大学名	東京医科歯科大学		
講座、分野（教室）名	大学院医歯学総合研究科 口腔機能再構築学講座 小児歯科学分野		
主任教授	不在（分野長 は 准教授・ 宮新 美智世）		
講座医局員研修プログラム責任者	宮新 美智世		
講座医局員研修プログラム修了時に資格要件を満たす学会認定医等の名称	日本小児歯科学会専門医 その他、日本障害者歯科学会認定医、日本小児口腔外科学会認定医、日本外傷歯学会認定医も可能		
分野員研修プログラムの特色			
<p>東京医科歯科大学小児歯科学分野の小児歯科臨床研修プログラムは、小児歯科に関する基礎的教育と総合的な臨床修練を通して、小児口腔保健の増進に寄与できる小児歯科医の育成を行うことを目標としている。</p> <p>研修過程では、2年間で大学院博士課程、大学院研究生、留学生在が共に学ぶ。1年次には、小児歯科全般に関するセミナーと模型実習、咬合誘導症例の総合診断演習を行い、基礎的知識と技能に関する評価試験に合格した後に、実施研修として齶蝕や咬合誘導症例等の患者配当を受ける。治療に先立ち診断・治療計画の立案、症例検討会での発表と討論を経験し、指導医の指導の下、自らが担当医として治療にあたる。各年度末には担当した症例についての総括的症例報告を行い、分野内での評価を受ける機会がある。</p> <p>また、文献抄読会で論文抄読を担当して科学的教養を深め、自身で研究の一端を担って学会発表や論文作成をする機会も与えられる。</p> <p>臨床研修形態の特徴は、指導医とのグループ制であり、これにより小児科、産科との連携医療、全身麻酔等の全身管理下での治療、障害児の治療、緊急対応や重症例への対応、歯と口腔の外傷治療や小手術（埋伏過剰歯摘出、小帯切除術）などのより多彩で難易度の高い症例を経験できている。</p> <p>“主治医”としての約1年半の経験を含む包括的な小児歯科臨床、学会・研究活動により、自ら学ぶ姿勢、臨床医として自立した活動を行う実力を養う。本研修は、小児歯科学会専門医資格の取得にも繋がっている。</p> <p>大学院生は3～4年次も引き続きグループ制の中で患者を担当し、診療にあたる。大学院研究生は、2年間の研修終了後も希望があれば、グループ制の中で臨床研修を継続できる。包括的小児歯科臨床や学会・研究活動の経験をし、小児歯科学会専門医資格の取得を目指している。</p>			
分野員研修プログラムの内容			
大学院生博士課程		大学院研究生	
1年目	<p>【臨床研修 1年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期セミナー（4～6月） ・ 評価試験（実技・筆記） 成長発育、齶蝕治療、外傷治療、安全対策等 ・ 臨床実施研修（齶蝕治療）、症例検討会（7月～） ・ 後期セミナー（9～12月） ・ 臨床実施研修（咬合誘導）、症例検討会（1月～） ・ 症例報告会（齶蝕症例）（2～3月） <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当 ・ 大学院博士課程の研究を開始 	1年目	<p>【臨床研修 1年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期セミナー（4～6月） ・ 評価試験（実技・筆記） 成長発育、齶蝕治療、外傷治療、安全対策等 ・ 臨床実施研修（齶蝕治療）、症例検討会（7月～） ・ 後期セミナー（9～12月） ・ 臨床実施研修（咬合誘導）、症例検討会（1月～） ・ 症例報告会（齶蝕症例）（2～3月） <p>【論文抄読会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当
2年目	<p>【臨床研修 2年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実施研修 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術（過剰歯摘出、小帯切除 等） 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、 障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・ 臨床実施研修（咬合誘導）、症例検討会 ・ 症例報告会（齶蝕・咬合誘導症例）（2～3月） <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当 ・ 大学院博士課程の研究、学会発表、論文作成 	2年目	<p>【臨床研修 2年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実施研修 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術（過剰歯摘出、小帯切除 等） 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、 障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・ 臨床実施研修（咬合誘導）、症例検討会 ・ 症例報告会（齶蝕・咬合誘導症例）（2～3月） <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当 ・ 臨床研究、学会発表、論文作成
3年目	<p>【臨床研修 3年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実施研修 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術（過剰歯摘出、小帯切除 等） 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、 障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当 ・ 大学院博士課程の研究、学会発表、論文作成 	3年目	<p>【臨床研修 3年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実施研修 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術（過剰歯摘出、小帯切除 等） 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、 障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・ 専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抄読会で論文抄読を担当 ・ 臨床研究、学会発表、論文作成

4年目	<p>【臨床研修 4年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抄読会で論文抄読を担当 ・大学院博士課程の研究、学会発表、論文作成 	4年目	<p>【臨床研修 4年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抄読会で論文抄読を担当 ・臨床研究、学会発表、論文作成
卒後 1年目	<p>【臨床研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・学会発表(ケースレポート等)、論文作成 ・専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文抄読会に参加 ・各自の研究テーマに沿った研究 ・学会発表、論文作成 	5年目	<p>【臨床研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文抄読会に参加 ・臨床研究、学会発表、論文作成
卒後 2年目	<p>【臨床研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・学会発表(ケースレポート等)、論文作成 ・専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文抄読会に参加 ・各自の研究テーマに沿った研究 ・学会発表、論文作成 	6年目	<p>【臨床研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実施研修 <ul style="list-style-type: none"> 齶蝕・咬合誘導症例 外来小手術(過剰歯摘出、小帯切除 等) 外傷歯への対応法、全身管理下での治療、障害児の治療、小児科・産科との医療連携 等 ・専門医取得へ向けた準備 <p>【論文抄読会・研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文抄読会に参加 ・臨床研究、学会発表、論文作成

大学名	東京医科歯科大学
講座、分野（教室）名	大学院医歯学総合研究科 口腔機能再構築学講座 小児歯科学分野
主任教授	不在（分野長 は 准教授・宮新 美智世）

本学の研修医修了者のキャリアデザインに向けてのフローチャート

大学ならびに歯学部附属病院の初期研修の後、大学院博士課程ならびに研究生は 共に、日中は外来業務ならびに分野内での夜間セミナーを約3か月受講し、臨床担当試験に合格すると、診療者として認められる。その後、主治医として診療を担当すると共に、担当症例の術前カンファランスにおけるプレゼンテーションと討議を行い、毎年度末に症例経過報告を行う。2年間にわたる報告が評価されると、小児歯科研修課程を修了したものとみなされる。大学院博士課程は、これらの研修のほかに、研究テーマを決定の上、学内3教員による指導体制下で研究論文を作製して、学位審査を受ける。大学院博士課程ならびに大学院研究生は、卒業後も臨床研修や研究を継続することが可能である。また、歯学部附属病院の医員や教員に応簿することができる。

歯学部附属病院 医員・特任助教	大学院博士課程・大学院研究生
講座への入局希望受付期間： 10～12月	講座への入局希望受付期間： 6～12月
必要な書類： http://www.tmd.ac.jp/for-business/	願書提出時に必要な書類： http://www.tmd.ac.jp/admissions/graduate-school/index.html
分野長の面接を11月までにお受けください。	早めに分野長の面接をお受けください。

問い合わせ先：03-5803-5756 柿野聡子 satokopd.pedo@tmd.ac.jp

本学に在籍したことがない者のキャリアデザインに向けてのフローチャート

「本学の研修医修了者」の場合と同じ